4月16日（日）第二礼拝

「永遠に残るもの」Ｉコリント13章13節

「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」イエス様を信じる人たちには永遠のいのちがあります。この永遠のいのち、永遠の世界を活性化するものは、信仰、希望、愛です。その中で一番優れているのは、愛だと言われます。この「残る」という言葉とは、ギリシャ原語でメネー、「住みつく」という意味です。永遠に私たちと共に住むもの、これが信仰、希望、愛です。

第一番目に信仰です。私たちはイエス様の十字架の恵みを信じて救われました。「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル11:1)」望んでいる事がらとは、神様の約束のことです。また、神様は御言葉であり霊です。目に見えるものではありません。信仰とは、目に見えないものを確信し、神様の語られた御言葉を信じることです。「見よ、わたしは、世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。(マタイ28:20)」神様が共におられることを信じることで、私たちに起こる全てが益になることを信じることができます。

第二番目は希望です。希望は信仰を導く案内人です。主の霊は希望の御霊であり、神様は希望の神様です。聖霊様と共に歩むことは、日々の新しい歩みです。聖霊様は、私達が過去ではなく未来を見るようにしてくださいます。神様は、過去に私たちが犯した罪を忘れてくださるので、私たちは後ろ(過去)を振り向く必要がないのです。(イザヤ 43:25)イエス様の弟子のヤコブが殺された後、ペテロは牢に入れられ翌日殺される予定でした。しかし、突然御使いが現れ、光が牢を照らしました。そして、御使いはペテロのわき腹をたたいて彼を起こしました。(使徒の働き12:5-7)これは、教会が希望を捨てず、彼のために祈っていたからです。どんなに絶望的な状況でも、私達が希望を捨てずに祈ることが大切です。これは霊の戦いです。希望を持ち祈り続けるなら、突然日本のリバイバルも起こるのです。

第三番目は愛です。永遠のいのちを活性化するもので一番大事なものは愛です。愛とは、大事に思うこと、価値あるものとして扱うことです。希望も愛によって動きます。ペリカンは母性の強い鳥です。旅の途中、子どもたちがお腹を空かせると、親鳥は自分の胸の肉をとって子どもたちに食べさせます。また、子どもたちが病気にかかると、親鳥は自分の血を子どもたちに飲ませ死にます。イエス様も私たちを愛して、ご自分を捧げ死んでくださいました。この愛をもって、私たちはイエス様を信じるのです。(ローマ 5:3-5)どのような絶望や艱難があっても、私たちは希望を捨てません。キリストの愛を知り、自分が愛されていることを知れば、キリストの御言葉に対する信仰を持つことができます。これほどまでに私たちを愛してくださる方がいるので、私たちは希望を捨てることがないのです。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神はすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。(ローマ8:28)」アーメン！